

各位

2026年3月19日
会社名 のむら産業株式会社
代表者名 代表取締役社長 清川悦男
(コード番号：7131 東証スタンダード)
問合せ先 常務取締役 西澤賢治
URL: <https://www.nomurasangyo.co.jp/>

2026年10月期 第1四半期 決算補足資料

この質疑応答集は、2026年3月13日に発表いたしました2026年10月期 第1四半期決算に関して、当社で想定していた質問および発表以降に株主、投資家などの方々からいただいたお問い合わせの内容と、それに対する当社の回答について、以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。また、皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q1 | 2026年10月期第1四半期についてはどのように評価されていますか。

A | 2026年10月期第1四半期は、前年同期比で売上高11.1%増、営業利益74.2%増となり、大幅な増収増益を達成いたしました。主力である包装関連事業において、包装機械の販売が好調に推移したことが主な要因です。加えて、DX化などによる業務効率化の推進により、売上高の伸長率に比べ、販売費及び一般管理費率を抑制できたことも、収益性向上に寄与いたしました。

Q2 | 今期の業績については、上期の比重が高くなっていますが、進捗状況を教えてください。

A | 第1四半期につきましては、前期までに積み上げてきた機械関係の受注案件を優先して進めており、順調に収益へと転換することができております。また、上期計画に対する進捗率は約50%で推移しており、現時点では概ね計画通りに進捗しているものと認識しております。

Q3 | 包装機械が好調の業績を牽引しているようですが、包装資材のほうはいかがでしょう。

A | 包装資材につきましては、コメ価格の高止まりが続いたことで、消費者の買い控えが懸念されましたが、鮮度保持資材や小袋包装の需要拡大を背景に、概ね計画どおりに推移しております。両事業ともに堅調な事業運営を継続しております。

Q4 | コメの価格が一時より落ち着いてきている傾向がみられます。今後、御社の業績に影響することがあれば教えてください。

A | コメ価格の安定化により消費者の購買意欲が高まり、消費量が増加した場合には、包装資材の需要増加につながる可能性もあります。現時点では業績に大きな影響を及ぼす変化は生じておりませんが、今後も市場環境の動向を注視し、適切に対応してまいります。

Q5 | 物流梱包事業が、前期は減収・減益でしたが、今期第1四半期は増収・増益となった要因を教えてください。

A | 前期は、大手通販会社における梱包資材変更の影響を受け、減収減益となりました。今期においてもその影響は一部継続しております。しかしながら、展示会を活用した販促強化の取り組みにより新規引合いが増加したこと、および、のれん償却終了により、増収増益となりました。

以上